

平成14年度認定「佐賀マイスター」

(10職種 10名)

竹工芸	くりやま ときお 栗山 時雄
かわらぶき	ふじた たいすけ 藤田 泰輔
肥前ビードロ	故 いまいずみ たかし 今泉 隆
染色	故 やすだ りきたろう 安田 力太郎
建具製作	のぐち のぶゆき 野口 信行
日本料理	やまうち なおみ 山内 直海
鋳物	い で しんいちろう 井手 眞一郎
電気工事	とみよし としみ 富吉 敏美
浮立面木彫り	こもり けいぶん 小森 恵雲
めっき	たぐち ひでのぶ 田口 英信

竹工芸



くりやま ときお
栗山 時雄

昭和4年生

武雄市

昭和20年に家業である竹細工業に就業して以来、技能の研鑽に努め、四つ編み、六つ編み、綱代編みなど、10種類の江戸時代から続く編み方の貴重な継承者である。

さらに、この組み合わせ技法においては卓越した技能を有しており、県内の第一人者である。

かわらぶき



ふじた たいすけ
藤田 泰輔

昭和9年生

佐賀市

昭和32年に藤田製瓦所に入社以来、いぶし瓦製造販売施工に従事している。

日本風土に根ざした深い味わいと伝統の確かさのいぶし瓦を使った伝統的施工技法を認められ、諸富町「西覚寺」の本堂瓦葺替えなど、県内外の寺院の屋根工事を手がけている。

肥前ビードロ



いまいずみ たかし
今泉 隆

昭和10年生

佐賀市

昭和25年に副島硝子工業(株)に入社して以来、硝子吹き工として従事し、型を用いずに息の吹き込みで成形する宙吹き、更には、2本の竿を操るジャッパン吹き(二刀流吹き)技術を修得した。

このジャッパン吹きは技能伝承者として、佐賀市重要無形文化財として指定されている。

※ 平成17年3月にご逝去

染色



やすだ りきたろう
安田 力太郎

昭和 14 年生
唐津市

昭和 43 年から安田染工場の先代に師事して以来、もち粉を炊いたのりと粉糖を合わせた防染のりを用い、旗・幕・のぼり等の文字や文章などを染め付ける、手作業による印染（しるしぞめ）の伝統技能を修得している数少ない継承者であり、その技能は、県内でも極めて卓越したものである。

※ 平成 24 年 3 月にご逝去

建具製作



のぐち のぶゆき
野口 信行

昭和 17 年生
佐賀市

昭和 34 年に家業である野口木工所に就業し、その後家業を継承した。
建具製作の技術・技能に関して研究熱心であり、障子、ふすま等建具製作工程の歴史をはじめ、それらの道具製作など、伝統的知識・技能の継承者として業界では第一人者である。

日本料理



やまうち なおみ
山内 直海

昭和 21 年生
嬉野町

昭和 36 年から日本料理の業務に従事して以来、技能の研鑽に励み、これまで日本料理専門調理師厚生大臣認定、優秀技能者知事表彰を受賞するなど、優れた技能を有している。

また、佐賀県日本調理技能士会会長などの団体役員を歴任し、後継者育成に尽力している。

鋳物



い で しんいちろう
井手 眞一郎

昭和 21 年生
塩田町

昭和 37 年に東亜工機(株)に入社し、主に船舶用内燃機関部品のシリンダライナ、ピストン等の鋳造実務に従事している。

自己研鑽は人一倍旺盛で、品質向上や製造安定化に努め、また工具の改善や原価低減等現場技術について創意工夫を加えるなど、技術向上に大きく貢献している。

電気工事



とみよし とし み
富吉 敏美

昭和 25 年生

佐賀市

昭和 44 年に大阪の電気工事会社に就職し技能の習得に励み、昭和 51 年に帰郷後、(株)電興社に入社した。

その技能は、身近な家庭用電気設備工事の設計施工から、大規模公共工事に伴う電気工事の施工計画・施工図作成・施工管理において、県内業界では第一人者である。

浮立面木彫り



こもり けい うん
小森 恵雲

昭和 26 年生

鹿島市

昭和 45 年に三代目小森恵雲氏に弟子入りし、浮立面木彫り工芸の伝統的技法を修得し、昭和 50 年に杉彫を開店、平成 2 年に四代目小森恵雲を襲名した。

自然木の木目を活かし彫り上げた浮立面（白木）において、伝統の技に創意工夫を加えた独自の世界を確立している。

めっき



たぐち ひでのぶ
田口 英信

昭和 33 年生

基山町

昭和 55 年に田口電気工業(株)に入社し、めっき工程の液管理、品質管理、生産管理、排水処理の維持管理業務などに従事している。

これまで、30 種のめっきを独自開発するなど新しいめっきの開発に意欲的であり、合金めっきなどの次世代のめっき技術の開発にも努めている。